

奄美市学校施設等長寿命化計画 概要版

1. 計画策定の背景・目的

● 背景・目的

学校施設等の老朽化及び少子化による児童生徒数の減少が進む中、近い将来、学校施設等の改修等に多額の費用を要することは本市の重要な課題となっており、学校施設等の機能・性能を確保しつつ、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図ることが求められています。

学校施設等長寿命化計画(以下「本計画」という。)は、戦略的な維持管理等を推進するため、学校施設等を対象に、現地調査等を踏まえて現状の評価を行いながら、ライフサイクルコスト、保全優先度を勘案して、今後の維持保全の方向性を検討し、実際の整備内容や時期、費用等の具体的な内容を示すものです。

● 計画期間

計画期間は令和 2(2020)年度から令和 22(2040)年度とし、整備実施計画は令和 3(2021)年度から令和 22(2040)年度の 20 年間とします。

なお、事業の進捗状況、今後の社会情勢や市財政運営状況、学校施設の老朽化状況を踏まえ、5 年ごとに必要に応じた計画の見直しを実施することを基本とします。

● 対象施設

本計画の対象施設は、小学校 16 校、中学校 7 校、小中学校 5 校、幼稚園 4 園、全 236 施設とします。

2. 学校施設の目指すべき姿

以下の 4 つの視点から、学校施設の目指すべき姿を設定します。

● 安全・快適な学校施設等の環境向上

建物の改修を計画的に進め、児童生徒が安全かつ快適に利用できる教育環境の充実を図ります。

● 多様な学習活動への適応

誰一人取り残されない学びの保証に適応できる施設・設備整備を進めます。

● 児童生徒数の減少に伴う適正な学校規模の再編

児童生徒数の減少を見据えた、学校規模の適正化・適正配置を検討します。

● 地域コミュニティの拠点としての活用

地域コミュニティの拠点として多様な機能に対応できる施設整備を進めます。

3. 学校施設の実態

● 児童生徒数の推移

児童生徒数は近年減少傾向にあり、今後も減少が続くことが予想されています。

● 学校施設の保有量

施設全体の半数以上が築 30 年以上経過しており、今後の維持管理コストの増加が予想されます。

● 学校施設の老朽化状況

一部の施設で老朽化が進行しており、ひつ迫する財政状況を加味すると、計画的な改修の実施が必要です。

奄美市学校施設等長寿命化計画 概要版

4. 長寿命化の実施計画

● 基本的な方針

本計画は令和3年度から令和22年度までを、5年ごとに区分した中長期の計画を策定します。なお、本市の学校については、これまでに形成された地域コミュニティを維持するため、原則として現在の配置を維持するものとしますが、今後は必要に応じて学校の統廃合も視野に入れた見直し・検討を行います。

● 基本的な考え方

「奄美市公共施設等総合管理計画」の基本的な方針及び考え方に基づき、以下の3つの視点から長寿命化計画の基本的な考え方を整理します。

①保有総量の縮小による将来更新負担額の軽減

学校施設の利用状況やコスト状況、老朽化具合を的確に把握・分析し、学童保育等の利活用の見込みが低い施設については解体します。

②長寿命化の推進によるライフサイクルコストの低減

改修等については劣化度調査の結果を踏まえ、健全度等の低い施設から建物の健全性を回復させるため、計画的に順次実施します。

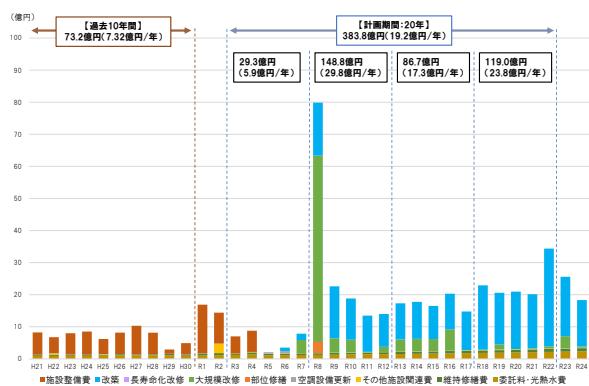
③施設管理の効率化によるコスト削減

光熱水費等のコスト削減について積極的に取り組み、学校間でのプールの共同利用や学校施設以外のプール利用を図り、水道費用等のコストを削減します。

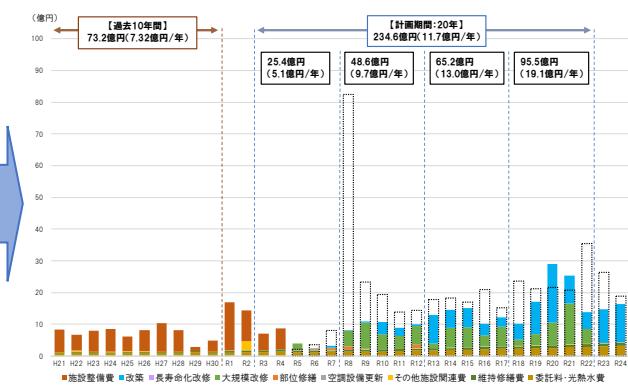
● 長寿命化の効果

予防保全型管理を実施した場合、20年間の費用は約235億円となり、年間約11.7億円が必要となります。事後保全型管理の費用と比較すると、20年間で約150億円、年間で約7.5億円の縮減が期待されます。

【事後保全型管理】



【予防保全型管理】



5. 長寿命化計画の継続的運用

学校施設等の老朽化が進む中、長期間にわたって学校環境の充実や学校施設に求められる機能を確保していくためには、継続的に計画を見直し、改善していくことが求められます。このため、5年ごとに計画の見直しを行います。計画の見直しのために、学校施設等における改修・修繕記録、現地調査や日常点検・定期点検結果による各施設の状態などを蓄積し、適宜、更新することが必要となります。

また、各学校と連携・協力しながら維持管理を行うとともに、学校及び教育委員会各課と関係部署との連携の強化を図りながら、本計画に関する取り組みを進めていきます。